

町制 70 周年記念式典 式辞

本日ここに、町制施行 70 周年という歴史的な節目を迎え、多くのご来賓のご出席を賜り、また、多くの町民の皆様とともにこの記念すべき日を祝うことができますことを、心より嬉しく思います。ご来賓の皆様、町民の皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

富士見町は、昭和 30 年 4 月 1 日、旧富士見村・本郷村・落合村・境村の 4 ケ村が合併し、新たな自治体としての歩みを始めました。

それから 70 年の歳月を経て、多くの先人たちがこのまちの発展のために尽力され、今日の姿を築いてくださいました。私たちが安心して暮らし、誇りを持てるまちとなったのは、まさに先人の皆様のだゆまめ努力と熱い情熱の賜物であります。ここにあらためて、深い敬意と感謝の意を表します。

先ほど町民憲章を唱和いたしました、これは昭和 56 年、町制施行 25 周年を記念して制定されたものです。

憲章に掲げられている精神は、制定以前から今に至るまで、この地に暮らす私たちにとって普遍的な価値であり、これからも大切に受け継ぎ、未来へと継承してまいりたいと考えております。

富士見町はその誕生以来、数多くの課題に直面しながらも、産業の振興や教育・福祉の充実に弛まず取り組んでまいりました。

たとえば、中央自動車道・諏訪南インターチェンジの開通、JR 中央東線の複線

化といった交通インフラの整備は、人と物の流れを大きく活性化させ、町の経済発展にも大きく寄与いたしました。

また、工場誘致や観光施設の整備、町内全域にわたる農業構造改善事業などにより、新たな産業による雇用の創出や農産物の産地化・生産性向上といった成果も得られました。

さらに、保育園・小中学校、福祉センターの建設、福祉サービスの拡充などを通じて、教育・福祉の面でも積極的にまちづくりを進めてまいりました。

こうした取り組みの根底には、厳しい自然環境や風土の中で長い間に育まれた、町民の皆様の勤勉さ、忍耐強さ、やさしさがあったのではないのでしょうか。そして、地域を思う心や、互いに助け合う連帯感が、今も町の基盤としてしっかりと息づいております。

強いて申し上げますと、富士見町民の皆様は、概して謙虚な方が多く、町の魅力を声高に語ったり、町外に積極的に PR することには、やや慎重な傾向があったかもしれないと、私自身も常々そのように感じておりました。

しかしながら、人口減少社会が進む中であっても、富士見町の自然や人々の温かさに惹かれて移住される方々が増えてきており、近年では6年連続で人口は社会増となっております。

こうした状況を受けて、町では昨年度、あらためて町の魅力を町民の皆様と共有し、町外の方々へも広く発信するためのキャッチコピーとロゴマークを制作い

たしました。

キャッチコピーは「空の恵みが届く町」。ロゴマークは、八ヶ岳と入笠山に抱かれた富士見町を、柔らかな山の曲線で表現したデザインとなっております。

いずれも、高原の町・富士見町の魅力を凝縮したものでございます。冷涼な気候、晴天率の高さ、高原野菜の美味しさ、四季折々に移ろう山の表情や空の色。

こうした町の魅力を、このキャッチコピーとロゴマークに込めて、今後一層、力強く発信してまいりたいと存じます。

現代社会は、不確実性の高い時代とも言われております。これから先、私たちを取り巻く環境がどのように変化していくのか、正確に予測することは困難です。

人口減少や高齢化、気候変動への対応、地域経済の活性化など、私たちはさまざまな課題に立ち向かっていかなければなりません。しかし、かつて先人たちが幾多の困難を乗り越え、未来を切り拓いてこられたように、私たちもまた、英知を結集し、新しい時代にふさわしい「まちづくり」「ひとづくり」に挑戦してまいります。

町民の皆様が誇りを持ち、次の世代に引き継いでいける富士見町をつくること。それこそが、今を生きる私たちの責務であります。

富士見町は、これからも皆様とともに歩み続けます。先人の築いてこられた歴史と伝統を大切にしながら、希望に満ちた未来へ向けて、新たな一歩をともに踏み出してまいりましょう。

結びに、本日ご列席いただきました皆様のご健勝とご多幸、そして富士見町の

さらなる発展と、町民の皆様の末永いお幸せを心より祈念申し上げ、私の式辞とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

令和 7 年 5 月 11 日

富士見町長 名取重治